

平成30年度 みんなでつくる政策提言

「市民自治ちちぶ会議」

秩父市議会議員 清野和彦(無所属)

みんなで作る政策提言について

- ▶ 28年6月より、市政への市民参画の手法、市の計画、議会、財政、政策提言などについて学び合う「市民自治ちちぶ会議」を開始し、「市民発」の政策提言づくりを決定。
- ▶ アイデア公募とオープンミーティングによる検討・合意形成を経て、28年度は10分野29項目、29年度は14分野39項目の政策提言を秩父市に提出。
- ▶ 3年目となる30年度は「みんなで作る政策提言」と題し、新たに3名からアイデアをいただき、1回のビジョンキーワードをつくるワークショップと9回のオープンミーティングを開催。延べ56名参加。参加者の合意がとれたものを提言とした。
- ▶ 30年度より秩父市と小鹿野町への政策提言を目指し、並行して検討・合意形成に取り組んだ。

取り組みの背景

- ▶ 秩父市では、人口減少に伴い税収が減少していく可能性が高く、今までと同じような質と量の行政サービスを市民に提供し続けられるか不安があり、近年続発する未曾有の自然災害といった脅威もある。
- ▶ また商業・観光振興といった分野で多様なステークホルダーを巻き込む「地域ぐるみ」の事業が求められている。
- ▶ これらのリスクやチャンスに対してしなやかな対応力を得るためには、立場や考え方の違う市民が、ある事業についてそれぞれの賛否を述べるだけで終始するのではなく、共に納得できる案を創り上げ、決定し、前進して行くことが重要となる。
- ▶ 市民自治ちちぶ会議による政策提言づくりは、それぞれ関心ごとの異なる多様な市民の間で合意を創り出すモデルケースとなることを目指すとともに、経験を通じたトレーニングとなることを目指した。

合意形成の手法

- ▶ オープンミーティングへの参加者が、ある提案に対して共感や違和感を表明し、それぞれの考えを発言することを活発にするためにコミュニティファシリテーターの廣水乃生氏の考案した「合意形成のためのハンドサイン」の手法を用いた。
- ▶ ハンドサインとは、親指を上立てる＝同意・親指を下に立てる＝不同意・親指を横に立てる・結果に従う（どちらでもよい）を参加者が一斉に示すもので、親指を下に立てる＝不同意 が無くなるまで話し合い結論を出す、というものである。

合意形成のためのハンドサイン



親指を上立てる = 同意



親指を横に立てる = 結果に従う



親指を下に立てる = 不同意

- ◆参加者は一斉にハンドサインを表明し、不同意がない場合は決定。
- ◆不同意がある場合は理由を述べ、議論をし、あらためてハンドサインを表明する。

ハンドサインの活用

▶ ハンドサインは以下のような流れで活用した。

①寄せられた政策案の説明

→②参加者からの質問や意見の表明

→③政策案が提言として相応しいか否かについて

参加者全員がハンドサインを表明

→④不同意の参加者がいない場合

（「同意」と「決定」に従うのみの場合）は政策提言とするか否かが決定。

不同意の参加者がいた場合は、その理由について説明をしてもらい、

あらためて他の参加者からも質問や意見を表明

→⑤意見交換などを通じて文言修正や加筆などが行われる

→⑥再度、参加者全員がハンドサインを表明

（その後、同様の流れが続く。

どうしても意見が一致しないと思われるものについては、

政策提言としない、という判断をした。）

ハンドサインの効果

- ▶ ハンドサインを用いることで、参加者の意思を全員が目で見えて理解することができ、それぞれの参加者の考えの表明も円滑になった。
- ▶ 自分と違う考えの人間に対して、その理由を確認し、それを解決するためにはどのような案が必要なのかを積極的に考え、発言する雰囲気生まれた。
- ▶ また辿り着いた結果に対して、それぞれの参加者が何らかの形で関わったものであるという実感が生まれた（「結果に従う」ということも意思の表明の一つの形である）。
- ▶ ハンドサインの手法は大変シンプルな手法だが、「参加者がコミットした結果」を導き出すためにとても有益な手段であり、市民参加の政治の実現に向けた様々な現場で活用できる手法であると考えている。

シティズンシップの推進に向けて

- ▶ 地方自治体の議会や首長、市民による「善政競争」を広げる優れた活動を表彰するマニフェスト大賞
- ▶ 第13回マニフェスト大賞のシティズンシップ推進賞部門にノミネート



Manifesto
Awards

認定証

市民自治ちちぶ会議 殿

あなたは、地方創生時代における政策提言の向上に資する取り組みを行い、第13回マニフェスト大賞でノミネートに選ばれました。
ここにノミネートに認定されたことを証明いたします。

2018年11月8日

マニフェスト大賞審査委員会



ヴィジョンキーワードをつくる ワークショップ

- ▶ 新たな試みとして政策提言をつくる上での一定の方向性を見出すためのワークショップを開催
- ▶ ワークショップを通じて共有されたヴィジョンキーワード

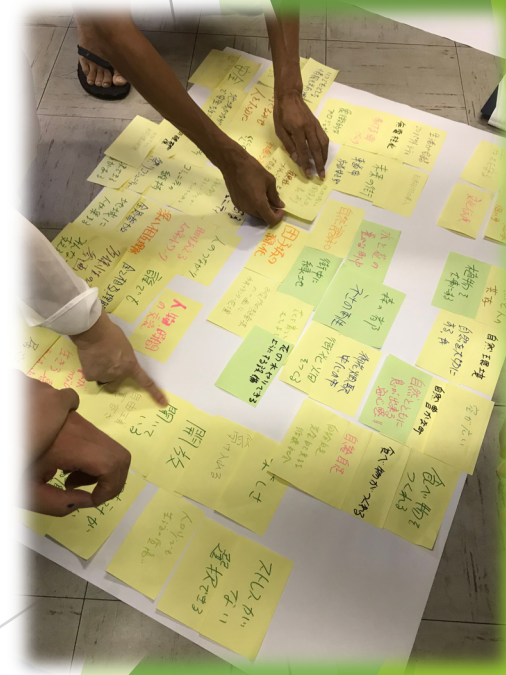
「奥山と人との共生」「まつり」「地域内循環」

「生きる喜び・価値転換」「森と水と花の豊かな街中」

「誰もが移動しやすいまち」「安心な居場所」

「安全なまち」

- ▶ 政策提言をつくるだけではなく、価値観を共有する仲間として、市民自治ちちぶ会議は新たなステージに足を踏み入れた。



平成30年度 みんなでつくる政策提言

16分野40項目

- ◆分野については「第2次秩父市総合 振興計画」の政策体系を参考にし、その他で必要と考えられる分野については追加した。
- ◆議会改革に関する項目も含まれているが、本提言の性格に鑑み掲載した。

就労対策の推進

- ▶ 秩父地域の伝統工芸の現状についての調査と状況の公表

商工業の振興

- ▶ ネットワークの基盤となるITインフラの強化

観光産業の振興

- ▶ 情報統合戦略室の設置
- ▶ オリンピックに向けた伝わるサインの促進（ピクトグラム・外国語対応・QRコード・ビーコンなど）
- ▶ 姉妹都市の文化を伝え・交流するイベントの開催
- ▶ 移住を目標とした体験交流型観光の推進
- ▶ 春・秋の札所巡礼のプロモーションの強化
- ▶ ジオパーク秩父のインバウンド対応の強化（外国人向けツアーガイドの育成、多言語化、循環バスの運行など）
- ▶ 日本武士道のルーツを探る体験型観光の実施（武道・茶道・禅など）

農林水産業の振興

- ▶ 秩父特産の農産品を利用したまつりの開催
- ▶ 循環型農業の推進を旨とした勉強会の開催
- ▶ 埼玉県特別栽培農産物認証取得の支援
- ▶ より具体的な事業モデルの構築による新規就農サポートの強化
- ▶ 耕作放棄地を利用した農福連携事業の推進

地域医療の充実

- ▶ 公立病院への産婦人科の開設
- ▶ 公立病院のホスピタリティの強化

福祉の充実

- ▶ 小中学生を対象とした認知症への理解の促進
- ▶ 障がいを持つ人の経済的自立を促すための職業訓練施設の開設
- ▶ 障がいを持つ人の市への雇用申し込みへの配慮
(障害説明書の追加・面接時間の延長など)

子育ての充実

- ▶ 公立小中学校の給食費無償化

学校教育の充実

- ▶ 食育のための地産地消給食の推進
- ▶ 小中学生を対象とするLGBTに関する理解の促進

生涯教育の充実

- ▶ 地域ぐるみで郷土の歴史を再認識させる事業の充実（平将門伝説、秩父氏、高野佐三郎など）

生活環境の整備

- ▶ 古材などの資源のリユースを促進するための集積施設の設立

安心安全なまちづくり

- ▶ 大規模の災害時の被災自治体のバックアップ体制の整備
- ▶ 大規模災害に備えた疎開保険の創設

地域基盤の整備

- ▶ （仮称）長尾根トンネルの早期着工
- ▶ コミュニティバスなどの公共交通の整備
- ▶ 公共交通空白地帯の移動手段を確保するためのライドシェアの実証実験
- ▶ 西武鉄道株式会社への特急電車増便の要望（6時台の平日便の運行、ならびに22時30分池袋発便の全日運行）
- ▶ 皆野寄居有料道路の住民割引の要望
- ▶ 都市緑化のさらなる推進（市民花壇制度の新設、御花畑駅周辺の緑化、マネージャーの登用など）

移住の促進

- ▶ コミュニティスペースの開設や空き家・遊休施設のリノベーションを推進する地域おこし協力隊の採用
- ▶ 関係人口の増加を目指したふるさと住民票制度の導入
- ▶ さらなる移住の促進を目指した移住者の話を住民が聴く会の開催

若者政策の推進

- ▶ 予算執行を伴う若者議会の創設

行政運営

- ▶ より多くの市長と市民との対話の機会の創出
- ▶ 客観的、具体的な数値を示した住民説明会の開催

議会改革

- ▶ より多くの議会報告会の開催
- ▶ 議会だよりの改良